

特集

春から夏はカビに注意

山形さくら町病院 医師 大久保 愉一

春が過ぎて、時々汗ばむくらいの暑さになると衣替えのシーズンです。押し入れやタンスを開けて夏物を整理していると、息苦しくなったり、咳が出たりしてませんか？

それは過敏性肺炎（かびんせいはいえん）のサインかもしれません。今回は、あまりなじみのないこの病気についてお話しします。

〈病気のイメージ〉

上山 さくらさん（仮名）48歳女性

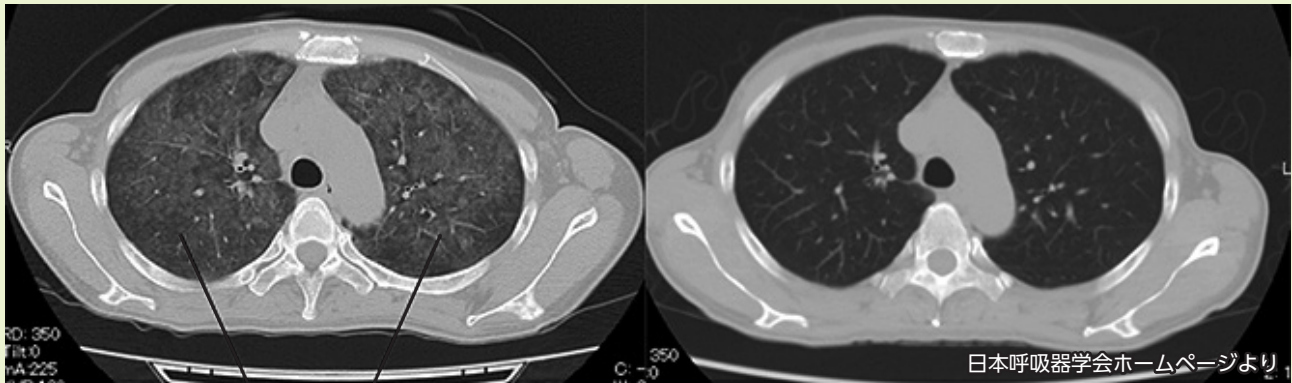
生まれつき健康で大きな病気をしたことはない。

そろそろ暑くなってきたので、いつまでも冬用の掛布団では寝苦しいと思って、押し入れから夏物の布団を引っ張り出してきた。たいした汚れもなかったので、出してきたまま夜に使って寝た。

数日後、体がほてり、息をしてもゼーゼーするようになった。気のせいだろうと思って家事をしていたが、なんだかだるい。こほこほと乾いた咳も出るようになった。気合で家事をこなしていたが、動くのもしんどくなってきたので、病院にいった。

こんな感じで発症します。

採血やレントゲン、CT、病気の経過から過敏性肺炎と診断されて入院となりました。



両肺に濃淡のあるスリガラス陰影を認めます

陰影は完全に消退

胸部CT（資料1）：向かって左のCTが、入院したときのCTで、右のCTが退院したあとのCTです。

過敏性肺炎を引き起こす原因は抗原と呼ばれ、カビが原因として最も多く、全体の7割とされています。ご自宅に行って「ガサ入れ」をしたところ、押し入れと布団からカビを検出しました。カビを肺の奥まで吸い込んだためにアレルギーが生じて肺炎になったのでした。夏に多いので夏型過敏性肺炎と言われます。カビだけでなく、鳥の糞やキノコ、防水スプレーなどでも起こりますのでご注意ください。

夏では掃除をしていないエアコンからカビがばらまかれたりします。「夏になると職場に行く」と息が苦しくてだるくて」という方がいるかもしれません。こころの病気かもしれませんが、もしかしたら職場に行くと抗原に曝露されて苦しい目に遭っているのかもしれません。

ちなみに、冬だと加湿器の水タンクに目に見えないカビが生えていて、湯気といっしょに部屋中にカビをばちまけているご家庭もあります。病気にならないために、タンクのこまめなお掃除をお願いします。

治療ですが、アレルギーですので抗原から逃げるのが基本です。一時的に入院したりすれば症状がよくなりますが、程度が重症の場合には酸素やステロイドなどを使って治療することもあります。せっかく良くなっても家に帰って悪化しては困りますので、誰かに大掃除をお願いするのがよいでしょう。自分で掃除すると舞い上がった抗原をたんまり吸うことになってしまいますので。

「病院なんかいざたね」と我慢していると、慢性化して呼吸機能が落ちることも多いです。長引く咳や発熱の時には呼吸器専門医の診察を受けることをおすすめします。

特集

待ちに待った春？ゆううつな春？

山形さくら町病院 臨床心理科係長 永田 悠芽

春は変化の季節です。卒業や入学、入社や退職、それにと
もなう引っ越しなどもとても多い季節ですね。生活の状況に
変化があると人はそれに合わせて生活のスタイルや物事の捉
え方などを変えていく必要に迫られます。それによって新し
い生活に「適応」していくのです。

しかしこの適応というのはなかなか大変な作業です。たく
さんの心のエネルギーが必要でしたくさんのストレスがか
かります。これは結婚や昇進、希望していた学校への進学な
どの良い変化であっても同様です。そのため多くの人が適応の努力をする4月から少し変化に
慣れてきた5月頃に心の不調を起こすことがあります。これが一般に言う「五月病」で、いわ
ば新しい環境の変化に適応するために、心のエネルギーを使い果たしてしまった状態なのです。
このような状態になると元気が出ずにゆううつな気持ちが続いたり、意欲がわからずに家から出
ることが億劫になったりします。

五月病かな？と思った時には焦らないことが大切です。多くの場合は時間の経過とともに段々
と良くなっていきます。心のエネルギーが少しずつたまっていくように休日はゆっくりと過ご
し、自分が楽しめるような時間を持つことが効果的です。趣味やスポーツなどで気分の切り替
えをはかるリフレッシュ法や入浴やストレッチなどのリラクゼーション法も心のエネルギー切
れの状態には効果があるとされています。もし自分なりの方法を試してみてもなかなか心の
不調が改善しないという時には気軽に医療機関にご相談ください。

余暇を楽しみ、生活の質を高めていくことは、精神的健康と関係があると言われています。
普段から日常生活に余裕をもって過ごすことで環境の変化に対しても適切な心のエネルギーの
配分をしていくことが出来るようになります。変化はストレスにもなりますが私たちを成長さ
せ新たな世界を見せてくれる力も持っています。ストレスとうまく付き合っていくことで生き
生きとした日々を過ごしていきたいものですね。



今日も快走

精神科訪問看護師が
皆様のお手伝いに参加します。

かみのやま病院 訪問看護 安孫子 好子



精神科訪問看護は

H29年度よりスタッフ3人体制で実施しています。ケースによっては、医療相談室スタッフとの同行訪問の時もあります。服薬確認・睡眠や生活状況把握の他、困っている事や心配な事はないかの相談、年金などの手続きの援助なども行っています。一緒に生活されているご家族も含め少しでも負担を減らせるよう、症状とのつき合い方を一緒に考えながら、自分らしく、安定した状態で地域の中で生活ができるようなお手伝いをさせていただきます。かばんの中に愛情をいっぱい詰め込んで毎日走っています。自立支援制度も利用できますので、主治医や医療スタッフに気軽に相談して下さい。



「とても緊張する～」と固くなってあまり話されなかったのが、何回かお伺いし、一緒に時間を過ごすうちに少しずつ慣れていただいたのか、今では、自分の方から話してくれるようになりました。「一緒に公園に行って散歩したいです」と、外出も出来るようになり、一緒に歩きながら外の景色や風を楽しんでいます。



「訪問看護はお金がかかるからいいです」と話されていたのが自立支援制度の説明を行い、経済的に少しは楽になることをお伝えし、週1回の訪問看護をスタートしました。今では、「来てもらっているいろいろな話を聴いてもらえるのがうれしい。楽しみだ」と待っていてくださいます。デイケアも紹介したところ参加され外出や行事も楽しんでいます。



「訪問看護はいりません」「来なくていいです」と話されていたCさん月1回の訪問からスタートし、回を重ねるごとにコミュニケーションがとれ、「来ると思うとちゃんと薬を飲まなければならないと思って」と薬を忘れずに飲んでいただけるようになりました。数年間入院せずに自宅で生活されています。今では毎回ステキな笑顔で迎えてくださいます。

寝返り～ 起き上がり介助

自宅でできる楽々介助

かなやの里 理学療法士 松沢 瞳

ポイント

- 寝返る側のスペースを十分開ける。
- 膝を曲げ、腕を組み、頭を上げることでベッド接地面を狭くし寝返りやすくする。
- 対象者の動きを妨げないようにする。



❶介助者は寝返る側に立ちベッドに片膝をつき、対象者の両膝をゆっくり立て、両腕は胸の前で組む。
(麻痺がある場合は麻痺がない側に立ち、麻痺のない足を麻痺がある足の下に入れる)



❷頭を無理のない範囲で上げ、顔や目線を寝返る側に向けてもらう。
介助者は対象者の膝と肩甲骨付近を支えながら、体をゆっくりと寝返る側に引く。



❸対象者の両下肢をベッドから下ろす。
介助者は対象者の首の下から手を回し、肩甲骨付近を支える。
弧を描くように介助者の手前に引き寄せながら体を起す。
(この時、出来れば対象者は肘をベッドにつき、体重をかけて起きてもらう。)

介助前、動作のたびに伝わるような声かけをしましょう！

※対象者が腰痛や圧迫骨折などで痛みがある場合は、両足をベッドから下ろすと同時に脊柱をねじらないようにしタイミング良く、患者を回転させるように起す。
声をかけて協力動作を行っていただくことで動作のリハビリにも繋がります。